

われもこつ 第21号

2006年7月13日発行



ヤマジノホトトギス(ユリ科)

花期 八月～九月

ホトトギスの名前の由来は、花の斑点が野鳥のホトトギスの胸の斑点に似ていることからつけられたといわれています。

ホトトギスの仲間
は東アジアにしかなく、種類も十五種ほどで、そのうち十二種が日本の固有種です。崖から垂れ下がって咲く枝垂性のものと、上向きに咲く立性のものがあり、花の色も黄色に細かい赤い斑点がつくものと白色に紫の斑点がつくものがあります。姿、形が色々でそれぞれ趣が異なります。

ヤマジノホトトギスは山路にひっそりと咲く地味な種類ですが、茶花として愛用されています。

軽井沢の樹木 一ウラジロモミp.2

軽井沢の貴重な植物 一ヤマシャクヤクp.3

軽井沢の湿地 今昔p.4

軽井沢の樹木 —ウラジロモミ—

大林博美

今日の軽井沢の街中で、神社や寺を除いて人目に触れる場所では、樹齢百年を超える木はさらにはありません。地元で詳しい人に聞くことによつて、そのような木にめぐり合うことが出来るくらいで、大きなモミの木（ウラジロモミ）が町中にありますが、百年を超えるものはまれです。避暑地として別荘が建てられて日除けや、隣家との境界に目隠しとして植えられたモミの木などが生長したものです。当時はモミの木の苗木などを生産する人も無く、自然に生えた幼樹を集めて植えていたのですが、その母樹も少なく需要にはなかなか追いつきませんでした。ところが浅間山の高い場所には、モミの近縁種であるシラビソという

樹種が沢山自生していて、そこから幼樹を採取して植えつけたりしていました。このような別荘地は旧軽井沢や星野、千ヶ滝などの早くから開発された地域で見られますが、終戦後の新たな別荘地の開発には、旧軽井沢の自然環境を見本に造成され、大量のモミが植えつけられました。それには苗木を専門に生産する農家が現れ、他の農家が畑や原野で育樹をして植木に仕立て供給し続け、育ったモミの多くが現在五十から二十年生として道の脇に林立しているのです。ところが、若い枝がしっかりと張り成長してゆくモミの姿を楽しんでいましたが、大きく成長すると日陰になった下枝は葉を落とし、隙間となり目隠しの用を足さ

なくなり、その上、屋根にも枝が覆い常時湿気になやまされ、思い切つて処分することもあります。一方長年親しんだ景観を大事にされ不便さを我慢して、大きなモミの森に埋もれるのを好しとする方もいます。ただ、自らの所有地内ですべてが叶えられる場合はいいのですが、他の所有地や建物また通行に影響が出るようなことは避けなければ大きな木は育てられないです。こんなことから現在ではモミからイチイやドウダンツツジへと変わり、またほかの樹種へと選択されています。



森林の高齢化、樹木の少子化。

栗岩竜雄（蝶の写真家）

ゼフィルスと呼ばれるシジミチョウ科の一群は、雑木林が活動の舞台。雑木林の各種の樹木が幼虫の食草です。好んで産卵されるのは、成長過程にある若い樹木。次世代を担う後継木は、森の代謝に必要なだけでなく、蝶の生息条件としても大切な役目を果たしています。

例えばミドリシジミは、直径10センチ程度までのハンノキを好んで産卵します。オオミドリシジミは樹高1メートル位のコナラなどがメイン。スアカミドリシジミはサクラ類の小木（ひこばえを含む）に産卵します。同じ樹種であれば、若い木が選ばれる傾向にあります。成虫

動環境としても手入れのされた二次林が好まれ、逆に放置されて樹林内が閉ざされると敬遠されます。そもそも暗い林床では後継木が育ちません。

豊かな緑と称される森には、一様に成長しきった樹木だけでなく、今後を受け継ぐ若い木々が必要です。今年生まれたばかりの零歳の木があり、成長著しい十年木、二十年木、人間で言う働き盛りの世代など、樹齢にバリエーションがあって、なおかつ樹種も多様であることが望まれます。森林の高齢化が進むことは、結果として樹木の少子化を招きます。

栗岩さんのホームページ

軽井沢の蝶のすべてがわかります！

<http://www.h2.dion.ne.jp/~lev.1000>

軽井沢の貴重な植物

ヤマシヤクヤク（ボタン科）

花期5～6月

散歩の途中見つけた、林の中にぽっかり浮かんだ白い物体。藪をかきわけてそばまで行ってみると、ヤマシヤクヤクのふくらみ始めたつぼみでした。まわりは民家や別荘が建ち始め、いずれこの林もなくなってしまう、この一帯に一株しかないヤマシヤクヤクも消える運命・・・、あるいは盗掘されてしまうかと思うと、花の美しさより悲しさが先に立ち、行く末が案じられます。ヤマシヤクヤクを発見してから毎日無事を確認していましたが、四日目、花が見えないのであわててそばまで行くと

大きな花びらが根本に

落ちていっているのを見つ

け、ほっとしまし

た。何日かすると

種子をつけてい

ることがわかり、

今は熟すのを

待っています。



「軽井沢（扇平）の湿地を守る会」 今城代表に聞く

軽井沢の湿地 今昔

「最近、町の姿が大きく変わろうとしています。今城さんはどのような現状をとらえていますか？」

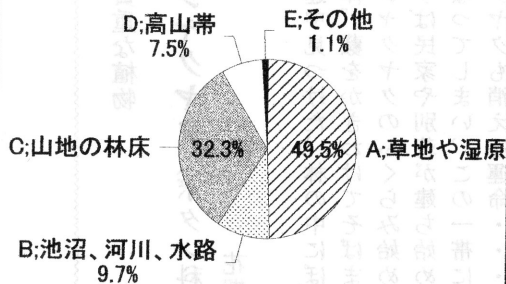
わたしたちの町は、かつてたくさん野の花が咲き乱れ、蝶が舞い、鳥が鳴き、動物達が愛らしい姿を見せてくれる町でした。涼しい気候と、自然豊かな雰囲気や、さまざまな景色を楽しむに、都会からいろいろな人たちが夏をすごしに来ていました。でも、昨今よく耳にするのが、「かつて身の回りにいた普通の生き物が現在では絶滅に瀕している。」という言葉です。それで、今、私たちはどんな植物を失いかけているのか疑問に思っ、『長野県版レッドデータブック 維管束植物編』や

『軽井沢の植物』（原・佐藤・黒沢共著）で、軽井沢町の絶滅危惧種八三種をその生育場所別に分類してみました。すると、次のようなデータが得られました。

軽井沢町の絶滅危惧植物の生育場所

- A ; 日当たりのよい草地や湿原……46種
- B ; 池沼、河川、水路……9種
- C ; 山地の林床……30種
- D ; 高山帯……7種
- E ; その他(寄生植物など)……1種

(ただし重複分類しているの、合計は83種以上になる。)



「軽井沢（扇平）の湿地を守る会」のホームページもご覧ください。
<http://www.ougidaira.net/>

草原と池沼、河川、水路を含む広義の湿地を生育場所とする植物の合計が約60%になることが分かり、予想以上に草原・湿地の破壊が、軽井沢の自然環境を悪化させていることがわかりました。なによりも優先して草原・湿地環境を保全しなければ軽井沢の自然は悪化するばかりなのです。

「湿地を守る会」が守ろうとしている扇平は町内で見かけなくなった植物が多種自生しているところですね。

軽井沢の南東部にある六、九haの湿地なのですが、別荘団地建設が計画されています。ここには、氷河期の遺存種とされているハナヒヨウタンボクの後継樹（赤ちゃん）が、七〇本以上生育しているのが確認されました。

「風越のグラウンドの脇にもハナヒヨウタンボクの並木があります。」

ハナヒヨウタンボクは「高冷地の湿原の周りなど、他の植物にとって生育しにくい場所」が生育環境とされている希少植物です。他の樹木にじゃまされず幼樹が大きくなれる環境が必要なのです。

「動物園で飼育されていても自然環

境で繁殖していない動物が「すでに絶滅した」動物であるのと同じでハナヒヨウタンボクも自然繁殖する湿地がなくなれば絶滅してしまうのです。

そのとおりです。しかも日本では、岩手県と長野県にしか生育が確認されていません。長野県では、軽井沢とりわけ扇平地域がもっとも重要な生育地です。

ここには、他にも、県の「希少動物保護条例」の指定種のサクラソウ、ルリソウ、ミスチドリなどの絶滅危惧種が少なくとも十一種、生育していることが、昨年八月までの調査で分かっています。軽井沢の貴重な生態系がある湿地なのです。

「湿地は困りものというか、必要のないものとして扱われてきたように思います。」

私たちは、湿地が生物多様性に

つても、軽井沢町の歴史・文化遺産であるという観点からも大切だと思っっています。一九二五年頃と比べ、九七%以上の湿地が破壊されている現状を考えると、わずかに残された貴重な湿地生態系を守る必要があるのではないのでしょうか？ 自分たちの大切なものは何か、という視点で、町行政による総合的な「自然・文化・環境調査」の早急な実施が望まれます。

「ひと昔前までは軽井沢には草原や湿原が広がり、たくさん野の花が咲いていたと聞きます。」

軽井沢町には、かつて人間の経済活動と不可分に結びついて手入れされていた、里山、秣場（まぐさば）、茅場（かやば）といった入会地が、広大な面積にわたってありました。ここには、人間が、約一五年に一度ほどの頻度で広葉樹を伐採し薪炭に焼き、落ち葉を堆肥にし、小枝は自家

消費用の燃料にする、冬の寒さを利用して天然水を作り、春にはスゲ類でミノを作る、夏の間は牛馬の飼料用に草を刈る、屋根材用にヌスキを採り、ヨシでよしすや壁の下地を作る、というさまざまな工夫をして自然を巧みに利用してきました。春先には草原・湿地に「火入れ」を行ない、森林化させることなく利用してきました。

このように常に人為的な「かく乱」が行なわれてきた結果、軽井沢には、日本では珍しい草原・湿地環境が広範囲に成立していたのです。東京大学の故原寛教授が指摘したように、軽井沢には、「有名な尾瀬ヶ原にもないような」豊かな草原・湿地があつたのです。

—湿地を人が利用することで豊かな生態系を維持してきたわけですね。

ところが、農業の機械化・化学肥料の利用、エネルギーの石油への依

存などによって入会地は利用されなくなり、里山は人の手が入らない放置林となりました。秣場、茅場は不要地として開発の対象になり、その結果これらの広大な入会地は村落共同体の所有を離れ、ゴルフ場に、別荘地にと開発されてきました。かつてお盆になると野の花を「盆花」として売り歩くほど多種多様な野の花があつた軽井沢町の生態系は、ほとんど失われてかけています。「野の花があるのがあたりまえだった」軽井沢町は、「野の花がない町」へと変わりつつあるのです。自然生態系が年を追うごとに貧弱になってきています。

—湿地でしか生きられない生き物たちからこれ以上住処を奪いたくないですよね。

私たちは、明治時代から大規模に植林された針葉樹林とその林床のコケのある風景も、この軽井沢町の歴

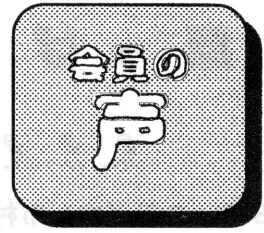
史遺産として尊重すべきだと思つています。しかしその一方で、縄文時代から人間による「火入れ」が行なわれてきたと推測されている軽井沢の草原、湿地の生態系こそ、優先して町の自然・文化・歴史的遺産として保全し未来の子供たちに手渡すべきだと強く思っています。

“もの言わぬ野の花や木を大切に
にする町は、お年寄りや、子供たちも大切にできる町”です。軽井沢が、自然も人間も大切にしている町になってほしいと思います。

これからも「軽井沢（扇平）の湿地を守る会」は、皆さんと共にねばりよく活動し、貴重な軽井沢の自然を保全していきたいと思つています。よろしくお願ひします。



今城さんは、われも二つの会の初代会長です。軽井沢の未来のために、日々馬区けりまゆるその行動かに
脱帽!



＊われもここの会の素敵な活動に、東京在住の私は自由に参加できないことは、残念でなりません。生まれた時から、夏は軽井沢で過ごしてきた私にとっては、軽井沢の自然のすべてが、家族と過ごした子供時代の思い出とつながります。

誰かが気づき、やらなくてはならないことを、われもここの会は、決して堅苦しくなく、シンプルな方法で行なっていると思います。欧米の人々はそんな活動を何よりのステータスと見なし、実に楽しんで自然保護ボランティアなどに関わっています。

す。それは、都会の良さも知った上での自然の価値の再認識なのかもしれない。自然を育て、共存するということは、人間が生き物としての尊厳を大自然からもらうことなのではないでしょうか。軽井沢地元で、肩書きあるような大人の方々こそ、自分の子供時代を思い出し、もっと積極的にこの会に協力して欲しいと思います。

八年前に無くなった父は東京、銀座生まれ。それこそ桜とチューリップしか花の名前を知らないような筋金入りの都会の子だったのですが、軽井沢を知ってからは身体が弱かったせいもあり、夏は軽井沢なしでは有り得なくなりました。父はその自然に助けられて、代表作になるような戯曲を何本も書くことができました。もし父が生きていたら、われもここの会を応援しただろうと思ひ、私は会へは天国の父の名前で入りました。「矢代静一様」で会報が届く

と、どこかで父が生きているような気分になりちよつぱり嬉しい。

空気の美味しさ、川の水の冷たさ、緑の匂い、鮮やかな花の色、様々な鳥の声、夕暮れの浅間山、星の美しさ。それらがすべて「本物」である贅沢。都会に住む私には宝物です。本当の人間の贅沢を守ろうとして、われもここの会、とにかく元気で続いて欲しいと願っています。

矢代朝子

＊今年も中部小学校のクラブ活動「軽井沢自然クラブ」に参加しています。昆虫の名前などは子供たちの方がよく知っていてビックリ。小さな生き物たちに目を向けることで大人になると忘れがちですが、実はとっても大切なこと。子供たちからいろいろ教わるクラブ活動です。

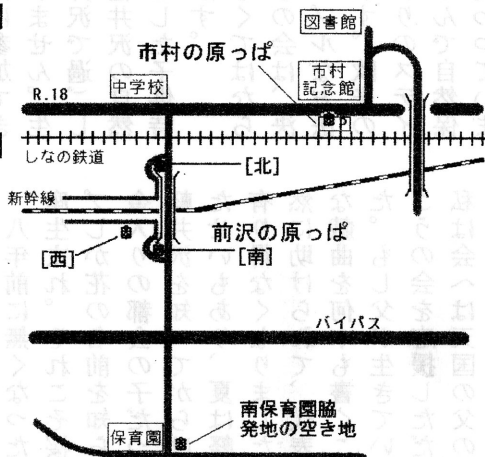
猪又裕子

原っぱで会いましょう！

われもこうの会

夏から秋のスケジュール

- 8月 2日(水) 市村の原っぱ … 早朝作業
- 9月 6日(水) 前沢の原っぱ[西]
- 24日(日) 前沢の原っぱ[西]
- 10月 11日(水) 発地 南保育園脇
- 22日(日) 市村の原っぱ
- 11月 5日(日) 前沢の原っぱ[西]



- * 集合時刻は午後1時30分
ただし8月2日は早朝作業、
6時30分に集合してください。
- * 小雨決行、雨天の場合は中止。
- * 持ち物：日除けの帽子、園芸用手袋、
スコップや鎌、お茶タイム用カップ
- * 会員以外の方の参加も大歓迎です。

オープンガーデンへ ようこそ！

軽井沢観光協会主催のオープン
ガーデンにわれもこうの会の
“原っぱ”も参加しています。
山野草の花が咲く野趣たっぷりの
“原っぱ”楽しんで下さい。

われもこうの会のポストカード 『軽井沢の花と蝶々』

蝶の専門家・写真家の栗岩さん撮影の
ポストカードができました。

6枚組300円で販売中！

ホームページもご覧ください

<http://www.h5.dion.ne.jp/~waremoko/>

発行/われもこうの会

事務局 TEL・FAX/ 0267(46)2505